秋起こしのポイント

～下層まで根を張らせ稲体の活力を維持しましょう～

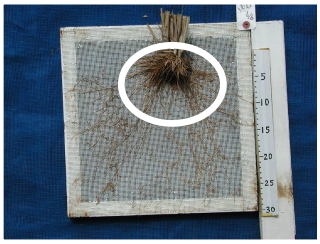
■現状より５㎝深耕しよう。

管内の圃場を見渡すと作土深10cm程度の圃場が多くみられます。今より５㎝深く、15㎝程度まで深耕することで根の生息域が広がり、水分や養分を吸収しやすくすることで収量が増加や胴割粒の発生軽減効果があります。

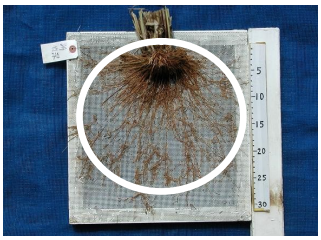
現状は・・・

・作土深15㎝以上の圃場は約3割程度
・平均の耕深は、10㎝程度
・耕起時のトラクタ速度は、0.4m／秒と早い

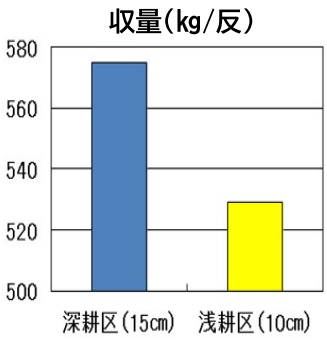
速度（m／秒）	耕深（cm）
0.25	14～16
0.34	12～14
0.50	10～12

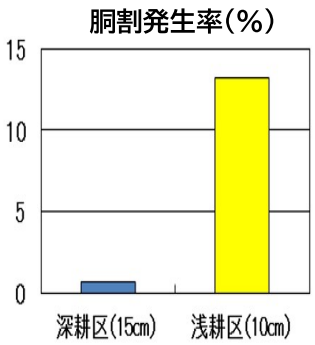


深耕８～９㎝



深耕14～15㎝





check 速度は0.25m/秒：歩く速さの1/4程度

■土づくり資材（ケイ酸質資材）を投入しよう。

稲が土壌から吸収する成分の中で最も多いのはケイ酸です。前作で吸収した分を補給するため、ケイ酸質資材（ケイカル・しきぶホワイト等）の投入により地力UPを図り、登熟後半まで根の活力を維持できる強い稲体をつくりましょう。

管内圃場の土壌分析結果より

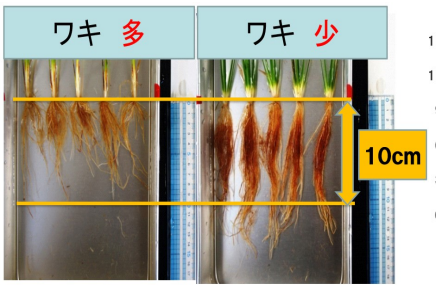
ケイ酸のはたらき

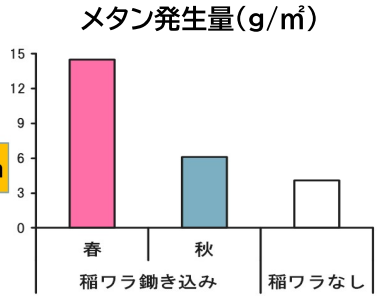
1.登熟を向上させ、粒張りや品質の向上
2.高温障害（乳白米）の軽減
3.病害虫に対する抵抗性の向上
4.耐倒伏性の向上

■暖かいうちに秋起こしを実施し稲わらの腐食を促進しよう。

稲わらをすき込むことで、堆肥の施用と同等の効果が期待出来ます。

また、秋の暖かいうちに実施することで稲わらの腐食を促進し、根の伸長に影響を及ぼすワキ（メタン）の発生を抑制できます。





check 秋起こしは気温の高い10月中に実施！！

収穫後の水田雑草対策

～地下茎（塊茎）で増える雑草には収穫後の除草剤が効果的～

■地下茎で増える雑草対策

クログワイ

オモダカ

ミズガヤツリ

セ リ

【除草剤名】

・ラウンドアップ MAX ロード・・・・・・・・・・50 倍液
・草枯らし MIC・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50 倍液
・クロレート S 粒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20 kg/反
（ケイカルなど土づくり資材との近接散布は避ける）

【散布時期】

・刈取後なるべく早めに除草剤を散布する事で、地上部を枯死させ地下茎の形成を阻害することができます。
・塊茎の形成時期はかなり幅があり、早いものは 9 月中に形成が見られます。
・散布時期が遅れるほど塊茎の数が多くなり、除草効果が劣るので注意しましょう。※9 月下旬までが理想
・2 年連続で秋散布すると、ほぼ根絶が可能となります。

【散布上の注意】

・散布前後に降雨があると効果が落ちるので、天候をよく見極めて散布しましょう。
・液剤の場合は圃場がワラで覆われている時は、除去するか雑草の発生後に散布し、茎葉に薬剤をよく付着させましょう。
・散布する際には、圃場周辺の作物への飛散防止に細心の注意を払いましょう。

⚠CAUTION ⚠CAUTION ⚠CAUTION ⚠CAUTION

特別栽培米生産予定の場合（翌年）

・翌年、特別栽培米（減農薬・減化学肥料栽培など）の作付けを予定されている場合には、秋にラウンドアップ MAX ロードを使用すると、翌年の栽培期間中に畦畔散布が出来なくなりますので注意してください。
※草からし MIC・クロレート S 粒など、その他の除草剤は使用できません。